

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立三瀬小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着や学力向上及び健康・体づくりについて、児童が自ら意識して主体的に取り組む力の育成を目指して、家庭との連携を図っていく必要がある。 今年度に引き続き、児童数が減少していく現状を踏まえ、家庭や地域、中学部と連携し、三瀬の地域・自然・地域人材を活用して交流しながら学習や行事を進めていくことで、三瀬を愛する心を高めるとともに、コミュニケーション力や、表現力の向上を図っていく必要がある。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し自信と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成 「学び・こころをつなぐ小中一貫教育の実践」
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の取り組み ②志を高める教育の推進 ③学力の向上（基礎・基本の充実）と自己教育力の育成 ④一人ひとりを大切に教育の推進 ⑤豊かな心を育む教育の推進 ⑥健やかな体を育む教育の推進

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童の実態に応じて、学びを深めることのできる授業の実践	○少人数や個人でも学習を「深める」ことができる学習スタイルの構築を目指し、全職員が1回以上の研究授業を行い、研究を進める。	・研究授業の前と後で、校内研のグループ毎に協議を行い、少人数や個人でも学習を「深める」ことができる実践事例を積み重ねる。	A	・職員のアンケートでは、全ての職員が「少人数や個人でも学習を深める」ことを意識し実践に取り組んでいると回答している。また2学期に全職員が研究授業を実施した。研究授業後は、グループ毎に話し合いの場を設定し、研究を深めることができた。	A	・研究授業が全職員で実施されており、三瀬ならではの学習を意識されている。 ・全職員の共通理解が進み、研究授業等の成果がでている。 ・現状維持ではなく、今後もさらに改善・進化を続けてほしい。	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で、進んで考えることができた」と答える児童の割合を80%以上 ○「道徳の授業によって豊かな心を育てている」と答える保護者の割合を80%以上	・道徳の授業づくりの工夫を行うとともに、保護者アンケートを実施して、指導改善に役立てる。 ・道徳の授業を年に1回以上保護者に公開する。	A	・全学級で道徳の授業を保護者に公開した。 ・「道徳の授業で、進んで考えることができた」と答える児童の割合は、98%であった。「道徳の授業によって豊かな心を育てている」と答える保護者の割合は、93%であった。	A	・道徳は、児童と先生が人としての生き方を考える場だと思う。アンケート結果でしっかり学ぶことができているのが分かる。 ・道徳の授業を中心として、学校教育全体で、豊かな心を身に付ける活動を行ってほしい。 ・全学級で道徳の授業を保護者に公開するのは大変よい取り組みなので、今後も続けてほしい。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○心のアンケートで「子どもの様子について不安なことがありませんでしたか」の問いに、「ない」と答える保護者95%以上。「嫌なことや悲しかったことがなかった」と答える児童95%以上とする。また、アンケートから得た事案については100%対応する。	○心のアンケートで「子どもの様子について不安なことがありませんでしたか」の問いに、「ない」と答える保護者95%以上。「嫌なことや悲しかったことがなかった」と答える児童95%以上とする。また、アンケートから得た事案については100%対応する。	・毎月末、保護者・児童全員に対し、「いじめ・いのちを考える心のアンケート」を実施し、気になる事案があれば直ちに対応する。SCと連携を図り、心のケアに努める。 ・児童支援、学級経営を円滑に行うため、GUテストおよび教育相談週間を2回実施する。	A	・毎月心のアンケートでは、97%が不安や心配なことはないと回答している。 ・気になる児童については、子ども支援会議などで共通理解している。 ・教育相談週間では、子ども一人一人と担任が面談することで、児童理解につなげている。	A	・毎月のアンケートで回答が返ってきている。一人一人にしっかりと向き合い対応してもらっている。 ・いじめは、いつ起こるか分からない、起こるものという意識をもって、いじめの早期発見、早期対応に努めていただきたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	①児童のよさが発揮できる教育活動を行い、認める声掛けをする。 ②キャリアパスポートの内容を工夫し、自身の変容や成長を自己評価したり、振り返りすることができるようにする。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と答える児童の割合は98%であり、目標数値を上回った。職員間で児童の励みになる声掛けを行っている。 ・「将来の夢や目標を持っている」と答える児童の割合は86%であり、目標数値を上回った。学期ごと目標を立て、自身の変容や成長を自己評価したり、振り返りすることができるようにしている。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた児童の割合は、昨年度を超える98%であったことは、非常に評価できる。 ・先生方の日々の対応が児童へく伝わっていると思う。その結果が数値として表れている。	
●心の教育	○人権・同和教育の充実	○「いやなことや悲しいことがなく、学校は楽しい」と答える児童の割合を80%以上 ○人権意識を高める。	・「ほかほかの木」(よいところ見つけ)を実施する。 ・学期に1回、人権教室や人権集会を実施する。 ・異学年集団による毎朝の登校班や縦割り班活動を実施し、児童間の交流を図る。	A	・「いやなことや悲しいことがなく、学校は楽しい」と答える児童の割合は、100%であった。 ・人権教室や人権集会は、人権・同和教育の年間計画に沿って着実に実施できた。また、上記アンケート結果からも人権意識が高まっていると判断する。 ・登校班や縦割り班活動を通して、異学年交流ができた。	A	・児童一人一人が楽しく学校に行くための活動を実施されていて、今後も期待がもてる。 ・人権に関して理解ある児童が多いと思う。 ・異学年交流については、今後も積極的に取り組んでいただきたい。	
	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間300分以上の児童80%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童90%以上 ③児童の交通事故を0(ゼロ)にする。	①縦割り班での遊びの時間を定期的に行うとともに、縄跳び大会等を実施する。休み時間の外遊びを奨励し個々の健康維持と体力の向上を図る。 ②給食の時間等の指導を通して、食育を推進していく。 ③交通安全教室を開催し、安全な自転車の乗り方や歩行の訓練を行ったり、地区児童会、集団下校、学級活動の中で継続して指導したりする。	A	①毎日、1度は外に出て遊んでいる児童が91%であり、概ね目標を達成できた。100%に近づけようとして今後も指導を継続する。 ②「好き嫌いをなく食べている」と答えた児童は86%、「朝食は毎日きちんと食べている」と答えた児童は93%であった。授業と給食時間に関する指導を今後も継続していく。 ③1月末まで、児童の交通事故数は0(ゼロ)だった。修学旅行先で、徒歩歩道では右左を確認し、手を挙げて渡ることを自主的に実践していた。交通安全の意識が児童に浸透しているのを実感した。	A	・外で遊んでいる児童をよく見る。指導がしっかりとされていると感じる。 ・「食」に関することは、学校だけでなく家での指導も大切なので、協力しながら進めてもらいたい。 ・運動習慣、食習慣とも継続的な指導をお願いしたい。 ・交通安全の意識は高いと感じる。日々の指導の継続とともに、児童から実情を聞くなどもお願いしたい。	
	○基本的な生活習慣の定着	○毎週、週のはじめに生活チェックを実施し、「ハンカチ・ティッシュを持っている」「爪を切っている」「朝ご飯をたべている」のすべてが○の児童を90%以上にする。 ○1日3回歯を磨く児童を80%以上にする。	・週1回生活チェックを実施し、放送やおたよりで結果を知らせる。 ・6月と11月に歯みがきがきかばり週間を設定したり、長期休業中の歯みがきカレンダーを配布したりして、歯みがきの習慣化を図る。	A	・週1回の生活チェックでは、8~9割程度が○である。ほぼ決まった児童ができていないので、継続して働きかけていきたい。 ・全学年に歯科保健指導を歯科校医の協力のもと実施した。「1日3回歯みがきができてきている児童は79%、たいたいできてきている児童は21%で、意識付けはできてきているので継続していきたい」。	A	・基本的な生活習慣の定着については、家庭での習慣付けが不可欠なので、保護者との連携や情報交換を行いながら進めていただきたい。 ・歯磨きの重要性をもっと教えていただくとよい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・職員各自に時間外勤務の月平均40時間以内を目標に、互いの分掌事務遂行の手立てを共有させることで、タイムマネジメントについて意識を高めさせる。 ・会議は時間厳守で、連絡事項等は簡潔に行う。また、長期休業中は、会議や研修を集中して行い、教材研究、学級事務等の時間を確保し、年休取得につなげる。	A	・「時間外勤務の月平均40時間以内を目標にして、タイムマネジメントを意識している」と答えた職員は、90%であった。職員各自が、タイムマネジメントを意識的に分掌事務や学級事務などを進めることができている。時間外在校等時間が減った。 ・火曜日は、定時退勤日を意識して業務を進める姿や声掛けが見られ、意識が高まっている。	A	・時間外在校等時間を削減することは手段で、職員の心身の健康が向上することで、本人のみならず、児童や学校のためになるのではないだろうか。 ・先生方が児童と直接関わる時間を少しでも多くしていただくことを希望する。 ・持ち帰りの仕事がないか心配。	
●特別支援教育の充実	○職員の心身の健康	○年間年休取得14日以上を目指す。 ○本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員80%以上を目指す。	・心身の健康のために、休暇を取得するよう呼び掛ける。 ・心身の不調を防ぐために、コミュニケーションを大切にし、ケアの充実を図る。	A	・年間年休取得14日以上の職員が73%で、ある程度の年休取得ができていた。 ・ストレスサイン10項目のうち該当するものが2項目以下の職員は、83%で目標数値は達成している。今後も継続して職員もおり、職員の心身の健康を守るよう掛ける。	A	・学校全体で助け合い、休みやすい雰囲気作りになみなさんが心掛けていただければと思う。 ・73%以上の職員が年休を14日以上取得できるように心掛けてほしい。	
	○全職員による共通理解と校内支援体制の充実	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教職員80%以上	・特別支援教育に関する講師招聘職員研修を実施する。 ・ケース会議(スクラム会)を開催するとともに、学校支援会議を実施し、情報共有をする。	A	・夏季休業中に、講師招聘職員研修を実施し、支援の向上に努めることができた。 ・ケース会議(スクラム会)を12回開催するとともに、必要に応じて支援会議を実施し、情報交換しながら、よりよい支援の方法を探ることができた。	A	・研修を通して、支援の向上に向けた対策をされており、また、会議の場でも支援の対策を考えてもらっている。 ・今後も様々な方法で、情報共有や情報交換を行って、特別支援教育を充実させてほしい。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
◎志を高める教育	◎ふるさと三瀬への郷土愛の育成	◎ふるさと学習を通して、「三瀬を好き」と答える児童を80%以上にする。	・地域人材を活用し、系統的なカリキュラムを実践する。 ・体験活動、調べ学習を通して、自然・産業・歴史・環境に触れさせ、ふるさと三瀬を好きな児童を育てる。	A	・老人クラブに頼らず、青年海外協力隊などの外部講師を招いての学習を行うことができた。 ・教育アンケートの結果、ふるさと三瀬を好きな児童が100%であった。今後もふるさとを愛することができるような活動を行う。		A	・ふるさとを愛する学習をたくさんの方々と触れ合いながら進められている。 ・今後も地元の方と交流する取り組みは、継続していただきたい。 ・保・小・中・高・大人・老人など多様な人材を生かして三瀬を愛する心を持ってほしい。
○小中一貫教育	○小中合同行事の充実	○小中合同の行事、体験活動において「楽しかった」という児童の割合を80%以上にする。 ○小中の学習の規律を示した「三瀬校スタンダード」において、「できた」という児童の割合を80%以上にする。	・行事ごとに縦割り班での振り返りを掲示板に貼り交流を深める。 ・「三瀬校スタンダード」を掲示し随時指導する。児童に前後期ごとの自己評価を行わせる。	A	・児童アンケートでは90%以上の児童が「中学部と一緒に行う行事は楽しい」と回答している。小中合同の行事は三瀬校の特色ある活動の一つなので、今後も交流を行ってほしい。 ・「三瀬校スタンダード」においては、全ての項目で「できた」と回答した児童の割合が90%を超えていた。今後も継続的に指導していきたい。	A	・小中が一つとなって行事を実施することで、子ども達のアンケートにもよい結果がでている。 ・小中合同行事の実践については、一貫校の強みでもあるので、今後も継続していただくとともに、三瀬校のよさを他地域へもつとアピールしてほしい。	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究では、少人数や個人でも学習を深めることができる学習スタイルの構築を目指し、全職員が研究授業を行うことができた。今後、交流する場の工夫を取り入れ、小中一貫教育の実践として研究を深めていく。 「基本的な生活習慣の定着」「運動習慣の定着や望ましい食習慣の育成」「学力の向上」など、家庭と連携を図りながら、児童が自ら意識して主体的に取り組む力を育成していく。 地域や家庭、中学部と連携して、三瀬の地域・自然・地域人材を活用し交流しながら学習や行事を進めてきた。継続して、三瀬を愛する心を高めるとともに、コミュニケーション力、表現力の向上を目指していく。 							